

国際的ベンチマーキングからみた福岡都市圏の特性と課題

— 国際地域ベンチマーク協議会（IRBC）参加6地域の比較分析 —

久保 隆行 *Takayuki KUBO*

（公財）福岡アジア都市研究所 上席主任研究員・情報戦略室長

要旨：グローバル競争が激化するなか、都市にも経営的な視点での競争戦略が求められている。その手法として、国際的ベンチマーキングは有効であると考えられる。日本の地方中枢拠点都市である福岡は、東京、ニューヨーク、ロンドンなどトップクラスの世界都市をベンチマークするにはふさわしくない。福岡に近い規模・性質を持ちながら、世界都市として評価を受けている都市こそをベンチマークすべきである。福岡が所属する国際地域ベンチマーク協議会（IRBC）において、類似する5地域を福岡と比較・分析した結果、生活の質では同等にあるものの、都市の成長においては一定の格差が認められた。福岡においては、このギャップをポテンシャルとみなして、5地域をベンチマークしながら競争力を持続的に向上させる戦略をとるべきである。

■**キーワード：**国際的ベンチマーキング、IRBC、Second Tier City、生活の質、国際競争力、グローバル競争戦略

1. はじめに

地球規模で都市化が進展している。そのなかでもグローバル化した流動的な人材や企業、投資を惹きつける都市こそが、「国際競争力」を有する都市である。東京は、世界の主要都市との競争を勝ち抜くために、国際空港の機能向上・アクセスの改善や外資系企業へのインセンティブ付与といった施策によって、都市の魅力アップと国際競争力の強化に取り組みはじめた。

福岡をはじめとする日本の地方中枢拠点都市においても、グローバル競争は今後不可避であるなかで、都市の規模や地理的特性に応じた身の丈に合った政策の立案・実行が求められている。自らの国内およびグローバルなポジションを把握したうえで、世界各地の同級の競合する都市群をベンチマーク¹⁾しつつ、独自のグローバル戦略を構築しなければならない。

国際比較にもとづく都市のポジショニングに関する研究は、この分野での画期的な業績として評価（Taylor 2013）される1966年のピーター・ホール *The World Cities* に起因する。ホールは、ロンド

ン、ニューヨーク、東京など7つの都市を「世界都市」と定義し、都市の国際的な優劣を示した。以降、S・ハイマー（1979）、J・フリードマン（1986）などの研究によって、グローバルな観点からの都市のヒエラルキーの解明が進んだ。本稿では、これら「世界都市論」の形成にて培われた都市の国際比較による計量的な評価理論を踏襲する。また、近年ではM・パーキンソンら（2013）によって、ヨーロッパの31か国の首都にあたらぬ124都市の計量的な分析が行われ、これらの都市がそれぞれの国家だけではなく、ヨーロッパの経済発展のために大きく貢献しているとの結論が出された。M・パーキンソンら（2014）はさらに、英国の46都市を首都、Second Tier Cities、Third Tier Citiesに分類し、それぞれのグループの英国および世界における経済的シェアや成長についての分析を提示した。本稿では、M・パーキンソンらのSecond Tier Citiesへの着眼点をふまえ、さらに、近年各種機関によって世界的に発表されているCity Index（都市ランキング）における都市の総合的な評価手法を参照しながら、福岡をモデルとする日本の地方中枢拠点都市の国際的

なポジショニングの把握を試みる。

本稿は、福岡市が所属している IRBC (International Regions Benchmarking Consortium・国際地域ベンチマーク協議会) の構成メンバー 10 地域のなかで、福岡を含む 6 つの地域に類似性がある点に着目した。IRBC は、シアトルの提唱で 2008 年に設立された。都市規模や経済特性などにおいて、類似性を有する世界 10 地域で構成される国際的な都市ネットワークである。各加盟地域は、経済指標や社会指標、共通して関心がある課題について、比較し学びあうことが互いにとって有益であるとの考えから、毎年会議を開催し情報交換を行っている²⁾。IRBC では、加盟都市を「地域」と呼称している。それは、市域を超えた「経済圏」あるいは「都市圏」を総体としてお互いにベンチマークし合うという協議会の理念に基づいている。本稿ではまず、これらのなかの 6 地域を Second Tier Cities と仮定し、類似性を確認する。次に、これら地域の計量的な比較を行い、その結果をもとに国際的ベンチマーキングによる政策立案の方法論を提示する。さらに、福岡の優位性と劣位性を明らかにしながら、福岡都市圏の今後の競争戦略を導出することを目的とする。

2. 福岡と類似する都市・地域の導出

2.1. クライテリアの設定

IRBC メンバーは、すべて先進国 (OECD 加盟国) に属している。これらのなかでダブリン、ストックホルムおよびヘルシンキは首都である。非首都の IRBC メンバーであるシアトル、バンクーバー、メルボルン、ミュンヘン、バルセロナ、テジョンの 6 都市は、政府機関や大使館の集積がないという点において、福岡とともに Second Tier Cities として類似性を有していると考えられる。そこで、以下の福岡と共通するクライテリアを設定し、世界の都市をスクリーニングすることによって、上記都市の福岡との類似性を確認する。

- ① 世界都市として一定の評価を受けている都市
- ② 当該国の首都または第一都市から独立した都市
- ③ 人口規模が福岡に近い都市
- ④ 世界都市として特化した機能がない都市

⑤ 居住環境の良い都市

2.2. 対象都市のスクリーニング

(1) 世界都市として一定の評価を受けている都市の選定

まず、①の要件として、世界における主要な都市評価報告 (ランキング) に基づき都市のスクリーニングを行った。ここでは、Global Power City Index 2013 (GPCI-2013・森記念財団・日本)、Global Cities Survey 2013 (GCS-2013・Knight Frank・英国)、Global Cities Index 2014 (GCI-2014・AT Kearney・米国)、Global Cities Competitiveness Index 2012 (GCCCI-2012・Economist Intelligence Unit・英国) の都市を多種多様な指標で総合的に評価する 4 つの報告を取り上げる。これらの報告の GPCI-2013、GCS-2013、GCI-2014 においてはそれぞれ一定の基準をクリアして評価対象となっている 40 都市 (GPCI・GCS) および 84 都市 (GCI) に該当する都市を選定する。GCCCI-2012 は評価対象都市数が 120 都市であるが、都市の選定基準が人口 100 万以上かつ GDP200 億ドル以上と比較的緩く、かつ米国、中国およびインドの都市数が限定されており、120 都市すべてが順当に選定されているわけでない。したがって、本稿では GCCCI の 120 都市の上位 2/3 にあたる 80 都市に限定して選定した。これらの何れかに選定された都市を「世界都市として一定の評価を受けている都市」と定義すると、102 都市がリストアップされた (表 1)。IRBC からは、ヘルシンキとテジョンがこの基準を満たさず、8 都市が残った。

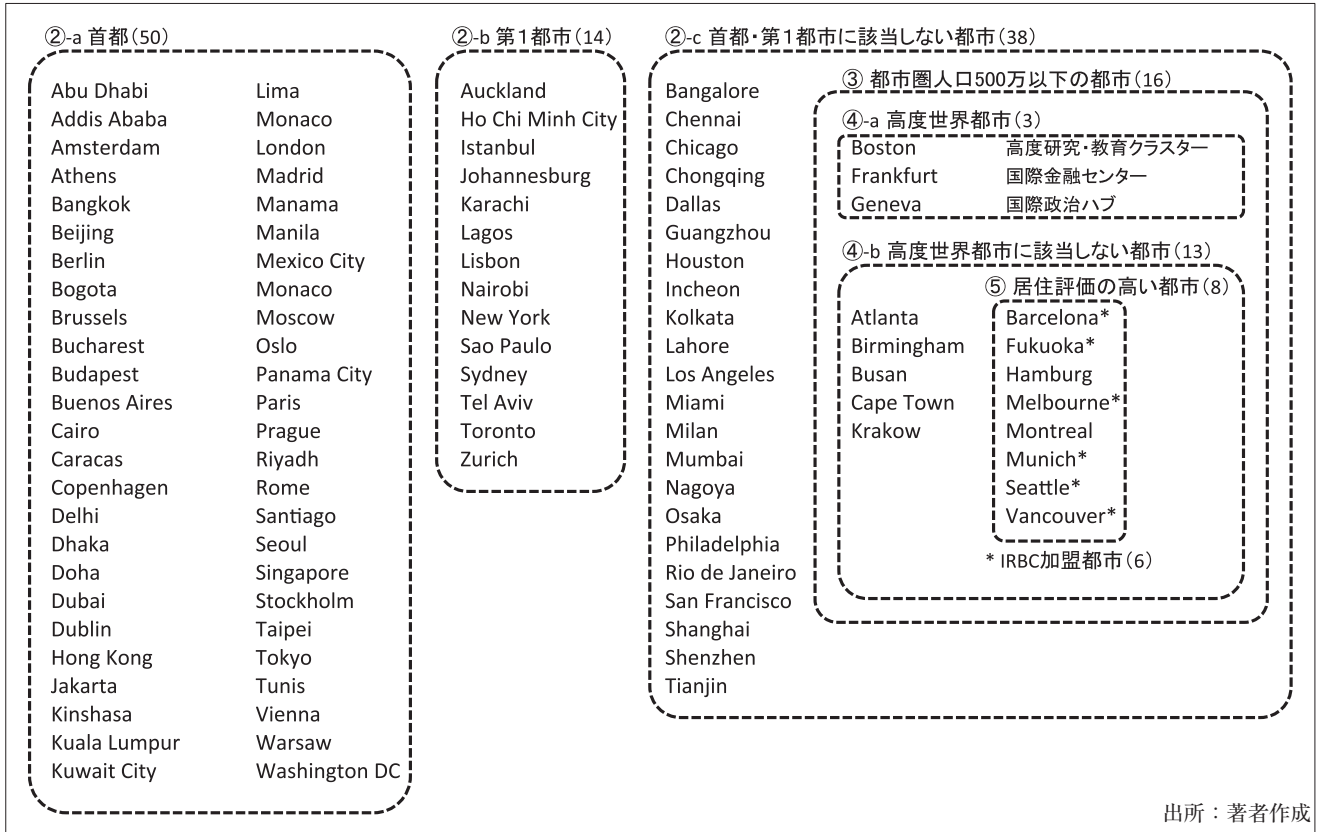
(2) 当該国の首都または第一都市から独立した都市の抽出

次に、②の要件を満たす条件として、首都を除外する。表 1 の 102 都市において、首都は 50 であり (表 1-②-a)、52 都市が該当した。この時点で、IRBC からはダブリンとストックホルムが除外され、シアトル、バンクーバー、メルボルン、ミュンヘン、バルセロナ、福岡の 6 都市となった。

さらに、当該国において首都ではないが、人口・経済規模が第一の都市 (たとえば米国ではニューヨークが該当) を選定したところ、14 都市が該当

表1 世界都市として一定の評価を受けている都市

① 世界都市として一定の評価を受けている都市(102)



した(表1-②-b)。これらを52都市から除外すると、38都市が残った(表1-②-c)。

(3) 人口規模が福岡に近い都市の抽出

福岡の市域の人口は約150万、都市圏では約250万である。本稿では、福岡都市圏の2倍にあたる500万を上限とする都市圏を形成する都市を、福岡と類似する人口規模の都市と仮定した。ここでのスクリーニングは、米国のDemographiaが毎年発表する世界の都市圏人口ランキングの2014年版にもとづき行った。

②の要件を満たした38都市のなかで、22都市が都市圏人口500万以上に該当する。これらを38都市から除外すると、16の都市に絞り込まれた(表1-③)。

(4) 世界都市として特化した機能がない都市の抽出

福岡と類似する都市を抽出するために、前項で「首都」をまず除外した。これは、首都としての政府機関や外交機関などの集積メリットが存在しなくとも、一定の国際競争力を有する都市を抽出するた

めである。しかし、首都でない都市であっても、国際連合欧州本部などの国際機関が集中しているジュネーブのような都市もある。このような国際政治機能の高度な集中のみならず、国際金融機能や研究開発機能において、高度なグローバル・ネットワークの中心地として「世界都市」として一定以上の役割を果たしている都市は福岡との類似性が低いと考えられるため、このプロセスで除外した。ここでは、上述のジュネーブ、世界の金融センターとしての役割を担うフランクフルト³⁾、そして、世界的な研究・教育機関が集中するボストンの3都市(表1-④-a)を、16都市から除外し、13都市に絞り込んだ(表1-④-b)。

(5) 居住環境の良い都市の抽出

最後に、福岡と類似する要素として、居住環境の良さをもとに絞り込みを行う。都市の居住性の良さを評価し、ランク付けする調査は、英国のMonocle誌が毎年発表するMost Livable Cities Index、Mercer Human Resource ConsultingによるQuality of Living Survey、Economist

Intelligence Unit による World's Most Livable Cities などが存在する。これらの公表されている結果において、何れかにランクインしている都市を抽出したところ、13都市中8都市が該当した(表1-⑤)。

2.3. 対象都市選定結果

上記のスクリーニングの結果、バルセロナ、ハンブルグ、ミュンヘン、メルボルン、シアトル、モントリオール、バンクーバーの7都市が、福岡とともに、同じクライテリアのもとで抽出された。したがって、これら7都市は、福岡と一定の類似性を有しているといえよう。また、抽出された8都市のなかで、6都市はIRBCメンバーである。ハンブルグとモントリオールについても、福岡のベンチマークになりうることを上記のプロセスで確認したが、本稿ではIRBCに属するシアトル、バンクーバー、メルボルン、ミュンヘン、バルセロナの5都市をベンチマー

クすることによって、福岡の優位性と劣位性について評価することにしたい。

3. IRBC6 地域の概要

3.1. 各地域の圏域と人口

IRBCは、加盟する地域の名称を冠する市(City)を核とした経済圏あるいは都市圏における事象をお互いに学びあうという概念にもとづいて組織されている。IRBCの創設者である、Bill Stafford氏は、「シアトル」の国際競争力は、シアトル市に限定されるものではなく、シアトル都市圏によって評価されるべきである⁴⁾と考えている。シアトル発祥として著名なボーイングやマイクロソフトは、シアトル市外の近郊地域に立地しながら、シアトルの経済やグローバル化に影響を与えている。このような背景もあり、IRBCはCitiesではなく、敢えてRegionsという概念でのネットワークを構築している。

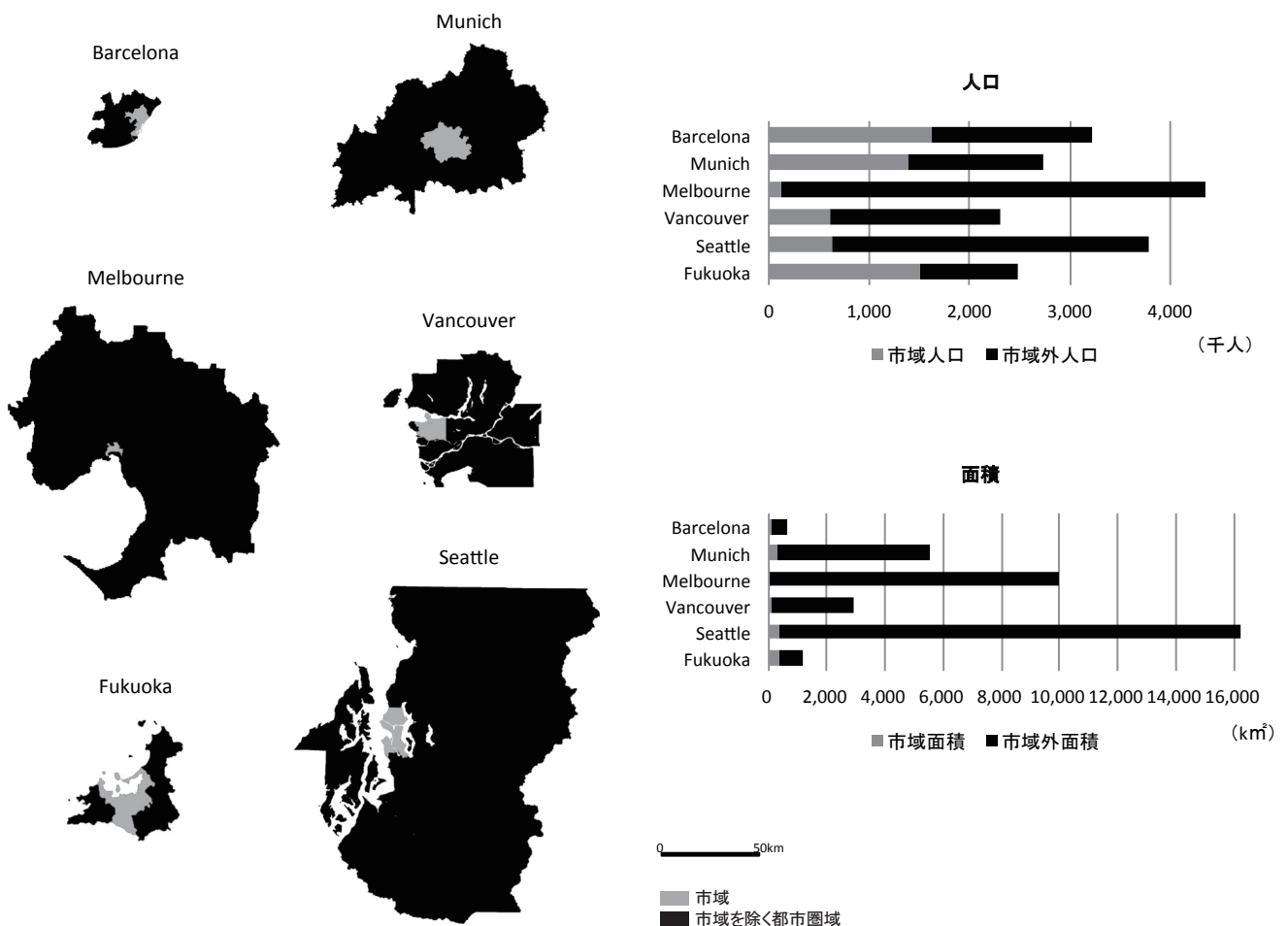


図1 6地域の市域および都市圏域の人口と面積

出所：著者作成

IRBC6 地域のそれぞれの中核市の圏域は明確である。だが、都市圏については、各国共通の明確な定義は存在しない。そのため、それぞれの地域において、中心市の名前 + Metropolitan Area あるいは Greater + 中心市の名前として公表されているもののなかで、最も適切と考えられるものを採用して6地域の圏域と人口を図1にまとめた。

中核市について6地域を比較すると、人口が12万未満のメルボルン市を除くと、シアトル市とバンクーバー市は人口約60万である。福岡市、ミュンヘン市、バルセロナ市は、人口150万前後と3つの階層に区分される。各地域定義の都市圏については、最も面積が大きいシアトルと最も面積が小さいバルセロナには、30倍近い格差が存在している。一方、すべての都市圏の人口は200万～400万台であり、人口規模は似通っている。6地域には、都市圏の面積には大きな違いが存在しているが、一定の範囲に同規模の人口集積が形成されている。

3.2. 各地域の国内における位置付け

(1) 福岡

福岡は、日本列島の南西に位置し、アジア諸国に最も近い地域に属する。首都東京からは約900km、かつての首都京都からも約500km離れており、古来より諸外国との交易を通じてゲートウェイ都市として独自の発展を遂げてきた。現在も九州の拠点都市として、東京や大阪に本社を置く企業の支社・支店が多く集積する一方、東証一部上場企業の本社は

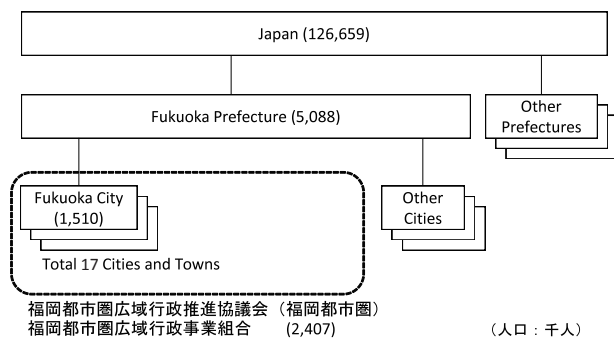


図2 日本における福岡都市圏の階層的な位置づけ

出所：筆者作成

少なく、中枢管理機能の集積は大きくない。

日本の地方自治は、都道府県および市町村による2層制を基本としている。都市圏レベルでの自治体という枠組みは存在しないが、都道府県および市町村によって広域連合を設置し、総合的かつ計画的に広域行政を推進することが可能である。また、事務の一部を共同して処理するための、一部事務組合や、広域にわたる総合的な計画を共同して作成するための協議会を設置することも地方自治法によって認められている。福岡都市圏は、福岡市を中心とした合計17市・町による人口規模約250万の地理的圏域である。福岡都市圏広域行政推進協議会を組織し、広域行政計画を策定するとともに、福岡都市圏広域行政事業組合によって広域行政が推進されている(図2)。本稿で比較する6地域のなかでは、都市圏レベルでの行政機能は最も小さい。

福岡市は、政令指定都市で人口6位であり、人口増加率は、1位である。また、総務省が1.5%通勤・通学圏として定義する「北九州・福岡大都市圏」としては、総人口500万を超える日本第4位の都市圏でもある。

(2) シアトル

シアトルは、米国の北西部に位置し、カナダとの国境に近いピュージェット湾沿岸に面する都市である。米国西岸最大都市のロサンゼルスからは1,500km以上離れているが、米国内ではアジアと太平洋地域およびヨーロッパから航空機で等距離(東京、ロンドンからともに9時間・7,700km)に位置しており、米国内でアジアとヨーロッパの商圏へのアクセスの優位性をもっている。シアトルでは、ロジスティクス産業、航空宇宙産業、情報通信産業、バイオテクノロジー産業などにおける革新的な企業が誕生してきた⁵⁾。

米国は、50の州からなる連邦制国家である。地方自治は各州によって規定され、州下に郡(カウンティ)および市町村をおく2層制を基本としている。シアトル市は、最下層の基礎自治体であり、その上位にキング郡がある。キング郡を含むピュージェット湾に面する4つの郡とそれらの郡下の82市・町によって構成されるピュージェット・サウンド地域

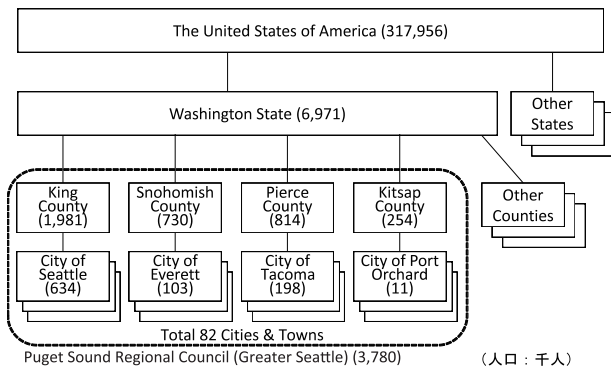


図3 米国におけるシアトル都市圏の階層的位置づけ
出所：筆者作成

協議会は、市域を超えた広域行政機関であり、シアトル都市圏（グレーター・シアトル）を形成している（図3）。シアトル都市圏は、独立した自治体としての機能をもたないが、地域経済戦略が策定されるなど、都市圏レベルでの行政機能は福岡と比較して大きい。

シアトル都市圏の人口は、ワシントン州の約半分の380万であり、全米の人口の1.2%を占める。これとは別に、米国では連邦政府によって各種統計のために都市圏（Metropolitan Area）が定義されている。シアトル市が属するシアトル-タコマ-ベルビュー都市圏（Seattle-Tacoma-Bellevue, WA Metropolitan Statistical Area）は、人口約350万であり、全米で15番目の人口規模の都市圏であるとされる。

(3) バンクーバー

カナダにおいては、首都オタワ、最大都市のトロント、第2都市のモントリオールなどの主要都市が東部に集中するなかで、バンクーバーは、カナダ西海岸に位置する唯一の大都市として発展してきた。また、バンクーバーが属するブリティッシュコロンビア州は、歴史的にアジア系移民を多数受け入れてきており、とくに、1967年の移民制度改革、1997年の香港中国返還を契機に、中国、香港からの移民が増加した。アジアとのつながりは、地理的な近接性も作用しながら、この地域の経済発展の大きな原動力となっている。

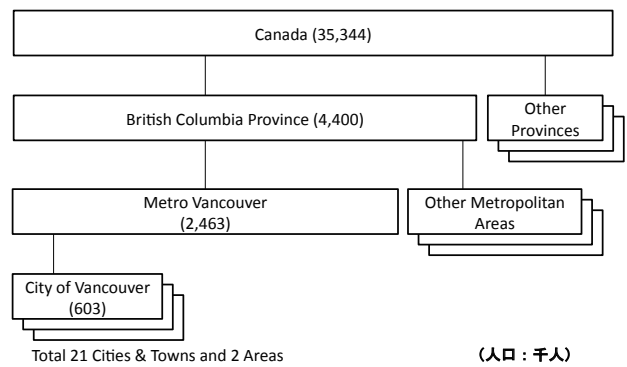


図4 カナダにおけるバンクーバー都市圏の階層的位置づけ
出所：筆者作成

カナダは、独立主権を有する10の州（Province）と、連邦政府の直轄地である3つの準州（Territory）による連邦制国家である。各州内の階層構造は、州直轄、郡と市町村の2層、郡のみ、市町村のみなど州によって異なる⁶⁾。バンクーバーが属するブリティッシュコロンビア州では、基礎自治体と広域自治体の2層制が採用されている。バンクーバー都市圏に相当するメトロ・バンクーバーは、バンクーバー市を筆頭とした21の市町村および2つの地区によって構成された広域自治体であり（図4）、本稿で比較する6地域において唯一都市圏レベルでの自治体を形成している。メトロ・バンクーバーの人口は約250万であり、カナダ全体の7%を占めるカナダ第3位の都市圏である。

(4) メルボルン

オーストラリア東海岸の最南端に位置するメルボルンは、かつては首都であり、現在はシドニーに次ぐ第2の都市である。シドニーおよび首都キャンベラからは500km以上離れており、ヨーロッパや北米の都市からも遠方に位置している。にもかかわらず、メルボルンには多くの移民が集まり、市内在住者の48%が海外で生まれ、140以上の言語が使われている⁷⁾。

オーストラリアは、6つの州（State）と2つの特別地域による連邦制国家であり、州下に基礎自治体が置かれる1層制である。ビクトリア州は、79の基礎自治体によって構成され、この中で、メルボルン市を含む31の基礎自治体によってメルボルン

都市圏(グレーター・メルボルン)が形成されている。福岡やシアトルと同様に自治機能はないが、州政府と個別自治体によって一体的な地域として計画・運営されている。都市圏人口は約410万であり、オーストラリア全人口の約18%を占めている。

(5) ミュンヘン

ドイツ南部バイエルン州に位置するミュンヘンは、首都ベルリン、第2都市のハンブルグ、経済首都のフランクフルトと並ぶ規模の独立した経済圏を形成している。ドイツ国家形成以前より、バイエルン地域は独自の国家としてミュンヘンを中心に発展してきた。かつては農業を主産業としていたが、第2次世界大戦以降、BMW、アウディ、シーメンス社等の企業を中心に先端産業の集積する産業拠点として急成長した。近年ではさらに、IT、バイオ、メディカル、環境技術等の先端分野で欧州有数のハイテクセンターへと発展した⁸⁾。

ドイツは16の州(Land)から構成される連邦制国家である。各州における地方自治体は、基礎自治体である市町村(ゲマインデ)と、その上位レベルである郡(クライス)による2層制を基本とする。ミュンヘンは、バイエルン州のなかで、郡と同等の権限を有する「郡独立市」⁹⁾である。ミュンヘン市と周辺自治体で形成されるミュンヘン都市圏(グレーター・ミュンヘン)には自治機能はないが、一体的な地域として都市計画が行われている¹⁰⁾。都市圏人口は約240万であり、ドイツ全体に占める割合は約3%である。

(6) バルセロナ

バルセロナは、スペイン北東部カタルーニャ州の地中海に面する都市である。首都のマドリッドとは一線を画し、スペイン語とともにカタルーニャ語を公用語とするなど独立意識の強い地域として知られている。ここでは、スペインでいち早く産業革命がもたらされ、芸術面においても豊かな創造性を育んできた。1980年代には深刻な不況に苦しんだが、1992年のオリンピック開催を契機に都市は大きく発展し、「バルセロナ・モデル」と呼ばれる都市再生が進められた¹¹⁾。

スペインは、連邦制国家ではないが権限の強い自

治州の下に県が設置され、さらに市町村が設置される3層制である。バルセロナ市は、カタルーニャ州の州都であり、バルセロナ県の県都でもある。かつては、バルセロナ市と周辺市町村をあわせた都市圏政府が置かれていたが、現在は廃止され、自発的な非営利団体バルセロナ都市圏(Metropolitan Area of Barcelona, AMB)が設置されている。AMBでは、都市計画や市民サービスに加え都市圏戦略計画も策定されている¹²⁾。バルセロナ都市圏の、人口は約320万でスペイン全人口の約7%を占めている。

4. IRBC6 地域の比較

4.1. 6 地域の比較方法

(1) 比較地域の範囲の設定

福岡およびベンチマークとして選定した6地域においては、すべての地域に都市圏レベルの広域自治体が存在するわけではない。バンクーバーのように、広域自治体が存在する場合は、都市圏の統計データの整備はある程度進んでいるが、福岡のような限定的な行政機能しか持たない都市圏においては、各基礎自治体レベルでしか統計データは整備されていないのが現状である。また、地域のパフォーマンスを評価する際に、地域の明確な範囲が問題となる場合とそうでない場合がある。たとえば、ある地域の知名度のような定性的な指標については、評価者によって地域の範囲は個別にイメージされるものである。これらをふまえ、本稿では6地域の比較を都市圏レベルで行うことを原則としながらも、比較する指標に応じて、評価範囲の設定を行うこととした。

(2) 評価指標の設定

都市の国際競争力評価の先行事例として先述した、GPCI、GCS、GCCCI、GCIの4つの評価報告では、それぞれの報告の目的に応じたテーマおよび評価項目の設定が行われている。本稿の目的は、福岡都市圏の今後の競争戦略の方向性をベンチマーク地域との比較によって導き出すことにある。ここでは、比較結果の活用を意識して、福岡市が策定する「第9次福岡市基本計画」との整合性をふまえながら、テーマおよび評価指標の設定を行う。

「第9次福岡市基本計画」は、基本戦略として、「生

表2 第9次福岡市基本計画における4つの都市像および8つの目標

基本構想		基本計画	
4つの都市像	<生活の質の向上>	目標1	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている
		目標2	さまざまな支え合いとつながりができている
	1 自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市	目標3	安全・安心で良好な生活環境が確保されている
		目標4	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている
	<都市の成長>	目標5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
		目標6	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている
	3 海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市	目標7	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している
		目標8	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている
4 活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市			

出所:福岡市『福岡市基本構想・第9次福岡市基本計画』2012年、p.14をもとに筆者作成

活の質の向上と都市の成長の好循環を創り出し、「福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う」ことをかかげている。さらに、基本戦略を実行するために、4つの都市像を描いたうえで、およそ10年後をターゲットとした8つの目標を定め(表2)、各目標に応じた具体的な施策を示している¹³⁾。本稿では、これらの4つの都市像と8つの目標をふまえ、これらに対応するように以下の4つのテーマ、および各テーマに応じた評価項目を設定した。4つのテーマのなかの①と②は、基本計画の「生活の質の向上」に、③と④は「都市の成長」にそれぞれ対応している。なお、各評価項目については、データ取得の可能性を見据えるために既出の4つの都市ランキングにて用いられている評価要素を参考にした。

- ①生活・コミュニティ(自律した市民が支えあい心豊かに生きる都市)
 - A. コミュニティの活力、B. コミュニティの成長、C. 生活と労働のバランス、D. 生活の豊かさ、E. 生活のしやすさ、F. ささえあいの充実度
- ②安全性・持続性(自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市)
 - A. 犯罪の少なさ、B. 災害リスクの少なさ、C. 医療・福祉の充実度、D. 気候の快適さ、E. 自然の豊かさ、F. 都市のコンパクトさ、G. 公共交通の充実度、H. 汚染の少なさ

- ③リソース・生産力(海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市)

A. 観光資源の豊かさ、B. 宿泊施設の多さ、C. 芸術鑑賞機会の多さ、D. 外食の充実度、E. スポーツの身近さ、F. 地域ブランド力の強さ、G. 人材の豊かさ、H. 経済力の強さ、I. 企業の強さ

- ④イノベーション・交流(活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市)

A. イノベーションの発生度合、B. スタートアップの多さ、C. 操業環境の良さ、D. 大学の強さ、E. 人材の多様性、F. 国際交流機会の多さ、G. 訪問者の多さ、H. 国際ゲートウェイ機能の充実度

4.2 6 地域のテーマ別比較結果

上記のテーマごとに設定した①A.～④H.の評価項目について、これらを具体的に数値にて示すことが可能となる指標を選定し、データの直接比較を行った(表3)。なお、指標については、評価項目を数値として示すデータが取得できるものはなるべく多く採用することを基本としたが、評価項目によっては単独の指標でしか構成されていないものもある。これらの指標がそれぞれの評価項目のすべてを代弁するものでは当然ない。しかし、本稿では、選定した指標のデータが評価項目の優劣に大きな影響をもたらすことを前提として分析を行うこととした。

各指標の取得範囲については、都市圏でのデータ取得が困難なものは、中心市、州(福岡の場合は九州・沖縄)、その他の階層の自治体、統計上の区分、または国のデータを代用した。この際、特定の地域でデータが公開されている場合であっても、その他の地域で同様のデータが取得できない場合は、OECDのようにすべての地域のデータを一括で公開しているソースを優先して使用した。また、使用データによっては、地域の明確な範囲が示されていないものが含まれていることも注記しておく。

(1) 生活・コミュニティ

A. コミュニティの活力

各都市圏または中心市の平均年齢¹⁴⁾および各州

表3-1 「生活の質の向上」にかかわる評価項目および各地域の指標値比較

1 生活・コミュニティ(自律した市民が支えあい豊かに生きる都市)									
評価項目	指標	単位	Fukuoka	Seattle	Vancouver	Melbourne	Munich	Barcelona	主要出所(主要年次)
A. コミュニティの活力	平均年齢	歳	41.9	37.0	40.2	36.0	41.9	36.5	各地域都市圏データ(2011)
	高齢者比率	%	24.7	12.7	15.9	14.4	19.6	17.5	OECD(2012)各州データ
B. コミュニティの成長	人口増加率	%	0.72	1.22	1.61	1.98	1.02	1.08	OECD(2000-2010)
	合計特殊出生率	数値	1.41	1.88	1.61	1.93	1.38	1.32	World Bank(2012)各国データ
C. 生活と労働のバランス	年間平均労働時間	時間	1,735	1,788	1,706	1,676	1,388	1,665	OECD(2013)各国データ
D. 生活の豊かさ	一人当たり世帯年間平均可処分所得	US\$	15,124	31,307	21,421	21,942	22,338	18,344	OECD(2011)各州データ
	一人当たりGDP	US\$	33,665	65,315	41,084	41,374	54,526	36,280	Global Metro Monitor(2012)
E. 生活のしやすさ	家賃水準	指数	21.3	57.2	54.7	58.3	46.8	32.6	Numbeo(2014)
	食料雑貨類価格水準	指数	96.3	97.2	111.2	113.6	87.2	68.5	Numbeo(2013)各州データ
	外食価格水準	指数	48.1	80.0	84.9	97.4	90.4	78.5	Numbeo(2014)
F. ささあいの充実度	審附金額の対GDP比(国別)	%	0.22	1.85	1.17	0.17	0.13	0.87	ジョンズ・ホプキンス大学

2 安全性・持続性(自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市)									
評価項目	指標	単位	Fukuoka	Seattle	Vancouver	Melbourne	Munich	Barcelona	主要出所(主要年次)
A. 犯罪の少なさ	人口当たり殺人件数	件/百万人	8.6	33.9	11.6	80.0	18.7	45.2	各中心市データ(2012, 2013)
B. 災害リスクの少なさ	地震リスクレベル	4段階評価値	2	2	1	1	1	1	コロンビア大学(2005)
	洪水リスクレベル	4段階評価値	2	3	1	2	3	3	コロンビア大学(2005)
	台風(サイクロン)リスクレベル	4段階評価値	4	1	1	1	1	1	コロンビア大学(2005)
C. 医療・福祉の充実度	人口当たり医師数	人/千人	2.57	2.64	2.07	3.42	3.95	2.97	OECD(2010)各州データ
	出生時平均余命	歳	82.9	79.9	82.3	82.4	81.2	82.7	OECD(2013)各州データ
D. 気候の快適さ	快適気温月数	月数	4	4	4	5	3	3	World Weather Information Service
	平均年間雨天日数	日数	111.2	152.0	166.0	138.7	129.4	72.0	World Weather Information Service
E. 自然の豊かさ	市中心部の緑地の比率	%	7.1%	7.3%	8.4%	6.7%	14.9%	12.0%	World Topographic Map
	市中心部の水面の比率	%	26.9%	36.7%	25.6%	17.6%	2.3%	29.9%	World Topographic Map
F. 都市のコンパクトさ	都市圏人口密度	km ² /人	2,116	233	802	435	496	5,088	各地域都市圏データ(2013)
G. 公共交通の充実度	人口当たりの鉄道駅数(トラム除く)	数/10万人	4.62	1.89	3.31	3.57	2.02	7.43	各中心市データ(2014)
H. 汚染の少なさ	一人当たり年間CO2排出量	ton/年・人	5.46	11.32	13.44	20.35	8.48	5.74	OECD(2008)
	PM2.5年間平均観測値	μg/m ³	18.38	6.02	6.8	4.6	21.07	14.88	OECD(2005)

出所：著者作成

表3-2 「都市の成長」にかかわる評価項目および各地域の指標値比較

3 リゾース・生産力(海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市)									
評価項目	指標	単位	Fukuoka	Seattle	Vancouver	Melbourne	Munich	Barcelona	主要出所(主要年次)
A. 観光資源の豊かさ	100km圏内の世界遺産	数	0	1	0	1	2	2	UNESCO(2014)
	文化(歴史)資源	数	29	46	53	38	48	84	Tripadvisor(2014)
	ランドマーク	数	12	26	19	24	35	47	Tripadvisor(2014)
	アウトドア	数	25	63	27	33	14	26	Tripadvisor(2014)
B. 宿泊施設の多さ	ホテル件数	数	115	293	221	447	428	982	Hotels.com, Expedia.com(2014)
C. 芸術鑑賞機会の多さ	ミュージアム	数	13	29	21	30	40	75	Tripadvisor(2014)
	シアター・ホール	数	4	17	30	19	16	40	Tripadvisor(2014)
D. 外食の充実度	グルメレストラン件数	数	3,262	3,431	2,811	4,035	2,756	6,070	Tripadvisor(2014)
E. スポーツの身近さ	スタジアム数(1万席以上)	数	2	6	4	8	4	5	Worldstadiums.com(2014)
	オリンピック大会開催実績	数	0	0	1	1	1	1	Olympic.org(2014)
F. 地域ブランド力の強さ	地域名の知名度	百万ヒット	315	2,322	1,590	1,982	953	4,141	Google(2014)
G. 人材の豊かさ	労働力人口増加率	%	0.55	1.41	1.98	2.14	1.68	1.76	OECD(2000-2010)
	人口に占める労働力人口の割合	%	49.7%	52.7%	56.3%	54.6%	53.1%	51.6%	OECD(2010)
	労働者に占める高校卒以上の割合	%	78.9	89.5	91.2	77.2	86.3	58.7	OECD(2013)各州データ
H. 経済力の強さ	従業者一人当たりGDP(生産性)	US\$	71,034	129,269	79,848	77,528	92,872	85,460	Global Metro Monitor(2012)
	GDP成長率	%	1.33	1.90	2.38	2.04	1.04	1.63	OECD(2000-2010)
I. 企業の強さ	Fortune Global 500企業本社数	数	0	2	0	3	4	1	Fortune(2014)
	地域内売上金額最大企業の売上金額	百万US\$	2,477	77,849	10,713	65,968	134,636	33,148	Fortune(2014)

4 インベーション・変遷(活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市)									
評価項目	指標	単位	Fukuoka	Seattle	Vancouver	Melbourne	Munich	Barcelona	主要出所(主要年次)
A. インベーション発生度合	人口当たり年間特許申請件数	数/百万人	139	436	128	107	494	93	OECD(2008)
B. スタートアップの多さ	年間新規創業率(国別)	%	4.0	13.0	8.0	14.0	12.0	6.0	厚生労働省(2007)各国データ
C. 操業環境の良さ	法人税実行税率	%	35.64	40.00	26.50	25.00	29.58	30.00	KPMG(2014)
D. 大学の強さ	QS大学ランキング掲載大学	数	1	1	2	7	2	3	QS World Universities(2014)
	QS大学ランキング最上位校の順位	順位	126	65	43	33	52	166	QS World Universities(2014)
E. 人材の多様性	人口に占める外国生まれの居住者の割合	%	1.7%	16.0%	42.7%	36.7%	23.0%	15.3%	各地域都市圏データ(2011)
	QS大学ランキング最上位校留学生比率	%	9.2%	14.3%	18.8%	14.5%	14.6%	17.9%	各大学(2014)
F. 国際交流機会の多さ	年間国際会議開催件数	件	23	16	49	54	78	154	ICCA(2013)
G. 訪問者の多さ	訪問者数(国内から)	千人	4,568	8,319	5,271	7,320	3,444	2,726	各中心市データ(2012)
	訪問者数(海外から)	千人	692	481	3,298	1,894	2,858	7,139	各中心市データ(2012)
H. 国際ゲートウェイ機能	国内線年間旅客数	千人	14,439	29,975	9,316	22,464	9,775	11,492	航空統計要覧(2012)
	国際線年間旅客数	千人	2,978	3,248	8,426	6,942	28,586	23,640	航空統計要覧(2012)
	国内線直行便就航都市数	数	16	103	38	33	15	23	OAG(2014)
	同大陸内国際線直行便就航都市数	数	17	19	31	7	132	119	OAG(2014)
	大陸間国際線直行便就航都市数	数	3	16	21	23	48	32	OAG(2014)
主要空港滑走路本数	数	1	3	3	2	2	3	各空港情報(2014)	
主要空港へのアクセス時間	分	11	32	20	20	35	35	各市情報(2014)	

出所：著者作成

(福岡は九州・沖縄：以下同様)の65歳以上の高齢者の割合¹⁵⁾の比較を行った。6地域のなかで、福岡の平均年齢、高齢者の割合ともに最も高い数値であった。なお、福岡市の高齢者比率(2012年)は

18.1%である。

B. コミュニティの成長

各都市圏の人口増加率¹⁶⁾および各国の合計特殊出生率¹⁷⁾の比較を行った。福岡の人口増加率は6

地域で最も小さかったが、合計特殊出生率ではミュンヘン（ドイツ）が福岡（日本）を下回った。なお、福岡市の合計特殊出生率（2013年）は、1.24である。

C. 生活と労働のバランス

国別の年間労働時間¹⁸⁾の比較を行ったところ、シアトル（米国）が最も長く、福岡（日本）が次いだ。

D. 生活の豊かさ

各州の一人当たり世帯年間平均可処分所得¹⁹⁾および各都市圏（福岡は九州北部大都市圏）の一人当たりGDP²⁰⁾を比較したところ、福岡はともに最も低い水準であった。なお、福岡市の2011年度経済計算にもとづく一人当たりGDPは458万円である。

E. 生活のしやすさ

各市における各種物価水準²¹⁾のインターネットによる定性的な調査データの比較を行った。3つの項目のなかで、福岡の家賃および外食価格は最も低い価格水準にあった。

F. ささえあいの充実度

ジョンズ・ホプキンス大学の調査による各国の寄付金額の対GDP比²²⁾の比較を行ったところ、シアトル（米国）が最も高く、福岡（日本）はミュンヘン（ドイツ）に次いで最も低い数値であった。

(2) 安全・持続性

A. 犯罪の少なさ

各市の人口当たりの殺人件数²³⁾の比較を行ったところ、福岡は最も低い数値であった。

B. 災害リスクの少なさ

コロンビア大学の調査による3つのタイプの災害発生頻度の世界分布図をもとに、各地域のリスクを4段階の数値²⁴⁾に換算して比較を行った。地震のリスクにおいては、福岡はシアトルと同等で他地域と比較してやや高い数値であった。洪水については、中位に位置し、台風（サイクロン）のリスクは最も高い数値であった。

C. 医療・福祉の充実度

各州の人口当たりの医師数²⁵⁾および出生時平均余命²⁶⁾の比較を行った。福岡は人口当たりの医師数では下位であったが、出生時平均余命は最も高い数値であった。

D. 気候の快適さ

各市の月別平均最低気温および最高気温が、10℃～25℃の範囲内となる年間快適気温月数²⁷⁾および各市の平均年間雨天日数²⁸⁾の比較を行った。福岡の快適気温月数はシアトルおよびバンクーバーと同等であった。福岡の平均年間雨天日数は、バルセロナに次いで少なかった。

E. 自然の豊かさ

各地域の中心部（市庁舎）より半径10km圏内の緑地および水面の占有率²⁹⁾の比較を行った。6地域のなかで、福岡の緑地比率はメルボルンに次いで低かったが、水面比率はシアトルとバルセロナに次いで高かった。

F. 都市のコンパクトさ

より狭い地域に多くの人が居住するという観点より、各地域によって設定される都市圏の人口密度³⁰⁾の比較を行った。福岡は、バルセロナに次いで高い数値であった。

G. 公共交通の充実度

各市域におけるトラムを除く鉄道駅の数をもとに人口当たりの数値³¹⁾に換算して比較を行った。福岡は、バルセロナに次いで高い数値であった。

H. 汚染の少なさ

各都市圏における一人当たり年間CO₂排出量³²⁾およびPM2.5年間平均観測値³³⁾の比較を行った。福岡の一人当たり年間CO₂排出量は最も少なかったが、PM2.5年間平均観測値はミュンヘンに次いで高い数値であった。

(3) リソース・生産性

A. 観光資源の豊かさ

各都市の100km圏内の世界遺産数³⁴⁾および総合トラベルサイトTripadvisor.comに掲載されている各都市の観光資源の件数³⁵⁾を種類別に比較した。福岡の100km圏内には世界遺産は存在せず、各種観光資源については文化（歴史）資源およびランドマークの件数が最も少なかった。アウトドアについては中位の件数であった。

B. 宿泊施設の多さ

ホテル予約サイトHotels.comおよびExpedia.comにて各都市名にて予約検索を行い、予約可能となったホテル件数の多いほうの数値³⁶⁾を比較し

た。6 地域のなかでは福岡が最も少ない件数であった。なお、福岡市観光統計による福岡市内のホテル・旅館数は 199（2012 年）である。

C. 芸術鑑賞機会の多さ

総合トラベルサイト Tripadvisor.com に掲載されている各都市のミュージアムおよびシアター・ホールの件数³⁷⁾の比較を行った。6 地域のなかで福岡のミュージアムおよびシアター・ホールともに最も少ない件数であった。

D. 外食の充実度

総合トラベルサイト Tripadvisor.com に掲載されている各都市のレストランの件数³⁸⁾の比較を行った。福岡のレストラン件数は、バルセロナ、シアトルに次いで上位であった。

E. スポーツの身近さ

各都市における一万席以上のスタジアム数³⁹⁾およびオリンピック大会開催数⁴⁰⁾の比較を行った。福岡のスタジアム数は 6 地域のなかで最も少なく、オリンピック大会は福岡とシアトルのみ開催されていない。

F. 地域ブランド力の強さ

Google 検索ツールを利用し、各地域の名称を各地域の言語によって各地域の Google ポータルサイトにて検索し、得たヒット件数の合計値⁴¹⁾の比較を行った。福岡の合計ヒット数は 6 地域のなかで最も少なかった。

G. 人材の豊かさ

各都市圏における労働力人口増加率⁴²⁾、人口に占める労働力人口の割合⁴³⁾および各州の労働者に占める高校卒以上の割合⁴⁴⁾の比較を行った。福岡の労働力人口増加率および人口に占める労働力人口の割合は 6 地域にて最も低い数値であったが、労働者に占める高校卒以上の割合については、バルセロナとメルボルンを上回った。

H. 経済力の強さ

各都市圏（福岡は九州北部大都市圏）の従業者一人当たり GDP⁴⁵⁾および各都市圏の GDP 成長率⁴⁶⁾の比較を行った。福岡の従業者一人当たりの GDP は 6 地域のなかで最も低く、GDP 成長率はミュンヘンに次いで最も低かった。なお、福岡市の 2011

年度経済計算にもとづく従業者一人当たり GDP は 740 万円である。

I. 企業の強さ

各都市圏において、Fortune Global 500（2014）に掲載された企業の本社数⁴⁷⁾および各地域内において売上金額が最も高い企業の売上金額⁴⁸⁾を比較した。福岡はバンクーバーとともに Fortune Global 500 企業本社数はゼロであり、売上金額において最も低い数値であった。

(4) イノベーション・交流

A. イノベーションの発生度合

各都市圏の人口当たり年間特許申請件数⁴⁹⁾の比較を行った。福岡の人口当たり年間特許申請件数は、6 地域のなかでバルセロナに次いで最も少ない件数であった。

B. スタートアップの多さ

各国における年間新規開業率⁵⁰⁾の比較を行った。福岡（日本）の年間新規開業率は最も低い数値であった。なお、福岡市の 2013 年度事業所開業率は 7.1% であった。

C. 操業環境の良さ

各国の法人税実効税率⁵¹⁾の比較を行った。福岡（日本）の法人税実効税率はシアトル（米国）に次いで最も高い数値であった。

D. 大学の強さ

各都市圏において、QS World Universities（2014）に掲載されている大学の数⁵²⁾および各地域内で最も高い順位の大学の順位⁵³⁾の比較を行った。福岡はシアトルとともに掲載大学は 1 大学で最も少なかったが、最上位大学の順位においてはバルセロナを上回った。

E. 人材の多様性

各都市圏の人口に占める外国生まれの居住者の割合⁵⁴⁾および QS 大学ランキング掲載の最上位校の留学生比率⁵⁵⁾の比較を行った。福岡は 6 地域のなかでともに最も低い数値であった。

F. 国際交流機会の多さ

各都市圏における年間国際会議開催件数⁵⁶⁾の比較を行った。福岡の年間国際会議開催件数はシアトルに次いで最も少なかった。

G. 訪問者の多さ

各市の国内および国外からの年間訪問者数⁵⁷⁾の比較を行った。福岡の国内からの訪問者数は、6地域のなかで中位であり、海外からの訪問者数はシアトルに次いで最も低い数値であった。

H. 国際ゲートウェイ機能の充実度

各都市圏における主要国際空港の国内線年間旅客数⁵⁸⁾および国際線年間旅客数⁵⁹⁾の比較を行った。福岡の国内線年間旅客数はシアトル、メルボルンに次いで最も高い数値であったが、国際線年間旅客数は最も低い数値であった。次に、各都市圏内のすべての国際空港から発着している国内線直行便就航都市数⁶⁰⁾、同大陸内国際線直行便就航都市数⁶¹⁾および大陸間国際線直行便就航都市数⁶²⁾の比較を行った。各地域における大陸の定義として、福岡はアジア大陸、シアトルおよびバンクーバーは北アメリカ大陸、メルボルンはオセアニア大陸、ミュンヘンおよびバルセロナはロシア西部を含むヨーロッパ大陸として就航都市数の集計をした。この結果、福岡の国内線はミュンヘンに次いで最も少なく、同大陸内国際線はメルボルンに次いで最も少なく、大陸間国際線は最も少ない直行便就航都市数であった。さらに、各地域の主要国際空港の滑走路本数⁶³⁾および主要国際空港への公共交通によるアクセス時間⁶⁴⁾の比較を行った。空港へのアクセスの基点として、各地域の中心市の市庁舎の最寄り駅に設定した。福岡の滑走路本数は1本であり最も少ないが、アクセス時間については最も短い数値であった。

5. 福岡の国際競争戦略

5.1. 6地域における福岡の評価方法

ここまで、6つの地域を4つのテーマのもとに31の評価項目を設置し、これらを構成する60の指標の数値の直接比較を行った。次に、6つの地域について各評価項目を同一の尺度で分析することによって、福岡の地域内での全般的なポジションを把握することを試みる。

さまざまな分野にまたがる異なるタイプの指標データを一元化して比較・評価する取り組みとして、近年では都市のランキングとして多くが発表されて

いる。しかし、これらのなかでランキングのもととなるデータを開示して具体的なスコアの算出方法を公開しているものはない。この分野で先行する佐貫(1983)は、独自に開発したST法によって都市力の計量的な評価を行い「都市の経済力ランキング」を作成した⁶⁵⁾。ここでは全国407都市における商業、金融業、飲食業等の集積にもとづき吸引係数を算出し、拠点性の高さを相対的に比較することによって都市のランク付けが行われている。中村ら(2004)は、全国主要都市について、自然、居住、経済、公共基盤、文化・教育、健康・安全、都市イメージの7つの分野を構成する膨大な指標データを分野別に偏差値として基準化して評価を行い、国内の「住みよい都市」の序列をつけた⁶⁶⁾。筆者が取り組んだ森記念財団都市戦略研究所(2012)による「世界の都市総合力ランキング2011」においては、69の指標データをそれぞれ指数化したうえで、都市の評価をスコアとして示した。ここでの指数化の方法は、指標ごとに最も評価の高い数値のスコアを100ポイントとし、最も評価の低い数値を0ポイントとして、この間に存在する数値をすべてポイントに置き換えた。さらに、ある都市の相対的な強みと弱みを把握するために、指標グループごとに平均したポイントを偏差値に置き換えて分析を行った。

本稿では、比較するサンプル数が6つと少ないため、偏差値による指標の比較はなじまないと考える。また、指標データを0～100ポイントに置き換える指数化についても、サンプル数が少ないため極度な差がつきすぎ、分析に支障が出ることが懸念される。したがって、本稿では、6地域における指標ごとのデータ間の比率について、最も評価の高い数値を100ポイントとした場合のその他の数値の割合をポイント化して比較することとした。筆者が取り組んだ森記念財団都市戦略研究所(2011)による「世界の都心総合力インデックス2010」においても、比較都市数が8都市と少なかったため同様の手法をとった。具体的には、指数化する指標において、最も大きい数値の評価が高い場合は、以下の計算式を用いて各地域のポイントを算定した。

$$\text{ポイント} = \frac{\text{該当する地域の数値}}{\text{各地域のなかでの}}$$

最大数値×100（最も大きい数値が100点）

また、指数化する指標において、最も小さい数値の評価が高い場合は、以下の計算式を用いて各地域のポイントを算定した。

ポイント＝各地域のなかでの最小数値÷該当する地域の数値×100（最も小さい数値が100点）

上記の計算式にもとづき、60の指標データを、すべて100ポイントを最大値とするポイントに置き換えた。これをもとに、それぞれの指標が構成する評価項目ごとに、複数の指標が存在するものについては平均値を算定し、単独の指標についてはそのまま置き換えた。さらに、テーマごとに評価項目別のポイントの平均値を算定した。

5.2 6地域における福岡の位置づけ

まず、福岡市基本計画の「生活の質の向上」にかかわる14の評価項目および「都市の成長」にかかわる17の評価項目の平均値をそれぞれ地域ごとに算出して散布図にまとめた（図5）。バルセロナがそれぞれの平均値で最も高いポジションに位置しており、メルボルンとミュンヘンが互いに近い位置にいることがわかる。シアトル、バンクーバーも互いに近い位置にあるなかで、福岡は、「生活の質の向上」ではその他の地域と同等の位置にあるものの、「都市の成長」において大きな差がみられる。

次に、テーマごとに6地域での福岡の位置づけをより明確に示すために、各地域の評価項目別のポイントをグラフに示した（図6）。テーマ別に福岡の6地域での位置づけを俯瞰すると、「生活の質の向上」にかかわる①生活・コミュニティ（図6-1）および②安全性・持続性（図6-2）においては、評価項目によっては若干の開きがあるものの、福岡はその他地域と概ね同等の位置にあるとえいえる。①生活・コミュニティの平均値は最も低い、シアトルを除く他地域との差は僅かである。また、②安全性・持続性の平均値はバルセロナに次いで2位である。

一方、「都市の成長」にかかわる③リソース・生産力（図6-3）および④イノベーション・交流（図6-4）においては、軒並み評価の低さが目立っている。とくに、食を除いた観光面や文化面での資源の評価

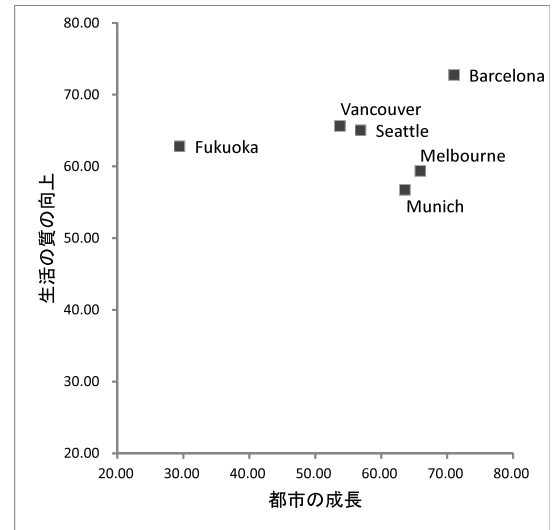


図5 「生活の質の向上」および「都市の成長」のポイント平均値にもとづく地域の散布図

出所：著者作成

が低く、これに起因して都市の国際的なブランド力も低迷していることがうかがえる。また、人的資源や経済力の評価については他地域とは大きな開きはないものの、福岡地域を牽引する有力なグローバル企業がないことに加え、イノベーションをささえる環境の弱さと人材の多様性、国際性の低さが相互に負の連鎖を起こすことによって、「都市の成長」の確たる生態系⁶⁷⁾が他の地域のように形成できていない状況が読みとれる。

5.3. 福岡の競争戦略の方向性

(1) 生活の質の向上

現状での比較的高い福岡の位置づけをふまえ、その他の5地域とのギャップがみられるコミュニティの活力および成長にかかわる指標の向上が望まれる。女性や高齢者のさらなる社会進出の促進、国内外からの高度人材の誘致、多様な人々の交流支援などを主眼とした戦略に重点を置くべきであろう。そのために、強みとして浮かび上がっている都市のコンパクトさや公共交通の利便性に磨きをかけながら、職・住の両面での都市の魅力をさらに向上させることは有効である。福岡市基本計画によれば、「住んでいる住宅及び住環境に対する満足度」は2008

年アンケートベースで75.2%と高い。一方、「高齢者の居住する住宅のうちの一定のバリアフリー化が行われた割合」は32.9%であり、「通学路における安全な歩行空間の確保度」は56.7%である。これらを2022年までにそれぞれ80%程度に向上させる目標を設定しているが、実現すれば都市の魅力は着実に向上するであろう。これらに加え、女性の就労環境の向上や、外国人が居住しやすい街づくり等の目標を設定するべきである。

(2) MICE 戦略

「都市の成長」においては、まず、5地域との差が大きい観光・文化面の強化による福岡の国際ブランドの向上策が必要である。福岡では現在、産

官学連携による福岡地域戦略推進協議会（Fukuoka D.C.）によって、福岡地域の総合的な発展を目指した取り組みが行われている。このなかで、MICEの推進は重点プロジェクトとして掲げられている。日本政府観光局（JNTO）が発表する国際会議件数において、福岡は東京に次いで国内で2位（2012年）である。しかし、国際会議協会（ICCA）において採用されている基準⁶⁸⁾による国際会議は、複数国でローテーション開催されることが条件であり、京都が福岡を上回っている（2012年）。6地域の比較においては、福岡はシアトルよりも開催件数は多いものの、4位のバンクーバーとは2倍以上、1位のバルセロナとは6倍以上の開きがある。今後も、質

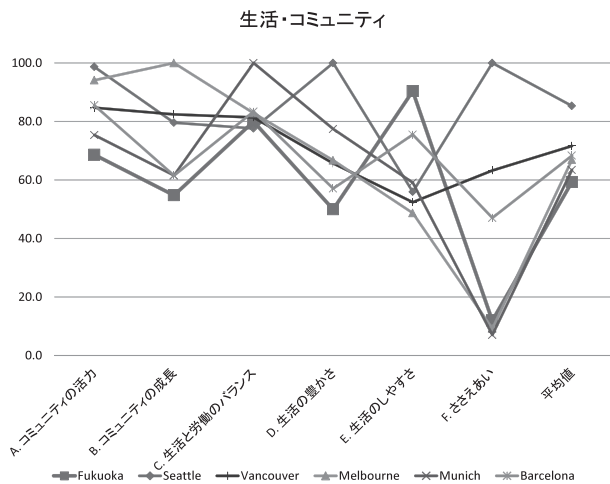


図6-1 「生活・コミュニティ」の評価項目別ポイント
出所：著者作成

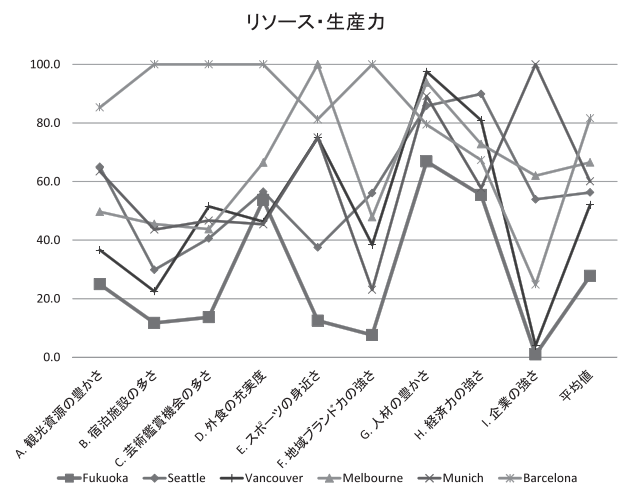


図6-3 「リソース・生産力」の評価項目別ポイント
出所：著者作成

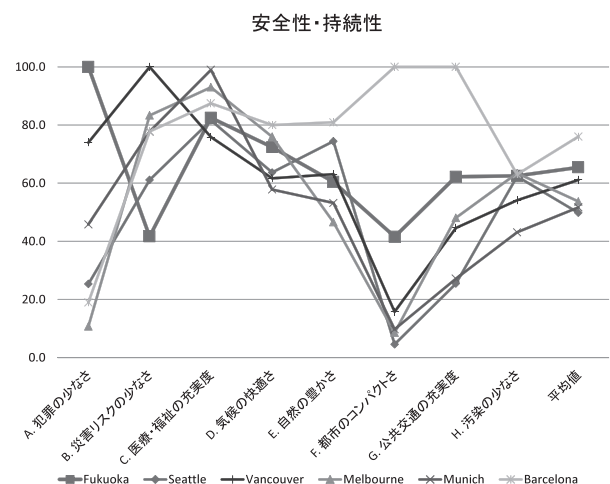


図6-2 「安全性・持続性」の評価項目別ポイント
出所：著者作成

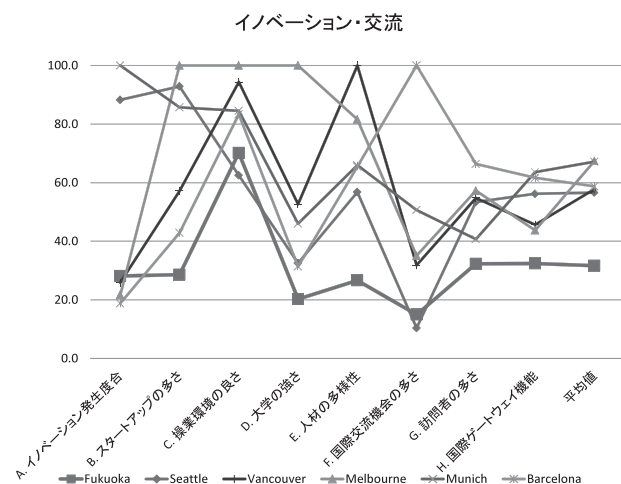


図6-4 「イノベーション・交流」の評価項目別ポイント
出所：著者作成

の高い国際会議をより多く誘致するという困難な課題に挑まなければならない。その方策として、受入れ施設の魅力向上は重要である。現在計画されている第2期展示場の整備を単なる施設の拡張に終わらせることなく、ここで比較した5地域のコンベンションセンターを上回る魅力をもつ複合施設へと変貌させることを目指すべきである。

国際ゲートウェイ機能も MICE 機能の一部である。福岡空港は、6地域のなかでも最も都心からのアクセスが良い空港である。今後予定されている福岡空港の滑走路増設などの機能強化は、MICE 戦略に着実に寄与するであろう。現在議論されている福岡空港の運営民間委託（コンセッション）が実現すれば、福岡空港をより戦略的に運営・整備することによって、福岡空港の国際競争力を高めることが可能となるであろう。

(3) イノベーション創出

まず、イノベーションの原動力として、福岡を除く5地域の人材の多様性（外国生まれの居住者の比率・上位大学の留学生比率）の高さに着目したい。シアトル、バンクーバーおよびメルボルンは、移民国家にあって多様な人種をかかえる基盤が高いのは当然である。ミュンヘンとバルセロナは、EU という枠組みのなかでの人材の流動性の高さは日本とは比較にならない。しかし、福岡は歴史的にアジアとの交流が深いながらも、外国人居住者割合 1.7% と全国平均値をやや上回る程度に過ぎない。福岡市の外国人登録者数は、2013年6月から1年間で6%増加した。福岡市基本計画では、過去10年間の外国人増加率のトレンド上昇しか見込んでいない。ベンチマーク地域との外国人受け入れ環境条件の違いはある程度許容しつつも、九州大学の現状の留学生比率 9% を福岡市のベンチマークとしながら、海外からの人材の誘致目標を設定してはどうか。

次に、多様な人材と有力な大学の融合は、イノベーションには欠かせない。世界の IT ハブとなったシリコンバレーは、その最たる見本である⁶⁹⁾。福岡のイノベーション創出に九州大学が果たす役割は重要であることは間違いない。一方で、福岡女子大学のような小さな大学が、グローバル化を意

識したスピーディな改革を通じて、全学生を留学生とともに全寮制としたような動きも見逃せない。多様性に対する寛容性は、小さな変化を長期にわたって許容しながら養われる性質のものである。福岡女子大学のような小さなアクションを積み上げていく戦略が求められる。

さらに、福岡市は 2014 年 3 月に国家戦略特区に指定され、「グローバル創業・雇用創出特区」を実現するための規制改革が具体化しつつある。特区メニューとして、スタートアップ法人減税や外国人創業人材の在留資格の見直しなどが議論されている。福岡市は、今後5年間で開業率を現状の2倍の13%に増やすことを目標に掲げた⁷⁰⁾。規制改革によって操業環境を向上させるとともに、イノベティブな人材の積極的な誘致を行わなければ、目標達成は困難であろう。

(4) 都市の持続的な成長戦略

福岡は今後、その他5地域と開きがある評価項目の差を着実に埋めていくことができれば、「都市の成長」の生態系はおのずと築かれるであろう。バルセロナは1980年代から30年以上かけて「バルセロナ・モデル」を築きあげてきた。福岡地域発展の中核を担う福岡市基本計画の目標設定は10年であるが、より長期のビジョンをかかげながら、グローバルなポジションアップを目指すべきである。

ミュンヘンは、ドイツの人口が減少するなかで人口が増加し続けており、福岡の状況に近い。しかし、ミュンヘン都心部の不動産価格は高騰し、一般市民の居住が困難な状況になりつつある。福岡においても、今後さらなる人口増加が見込まれるなかで、投機的な取引による不動産価格や物価の上昇も念頭に入れる必要がある。特区を活用しつつ、民間からの適切な投資を呼び込みながら、急激ではない持続的な成長戦略を描くべきである。

6. おわりに

本稿では、日本の地方中枢拠点都市である福岡を、グローバルな観点から比較・評価するために、IRBCの5地域を類似する地域として選定した。福岡との類似性として、首都でないことなどのクライ

テリアを設定した結果、これらの5地域が浮かび上がり、評価を行った。プロフィールの異なる多数の都市を序列化する既出の都市ランキングにおいて福岡が受けている評価と比較して、本稿で行った評価によって福岡の特性がより克明に見出されたと考える。

本稿での評価の結果、福岡の「生活の質の向上」にかかわる評価項目については5地域と同等でありながらも、「都市の成長」にかかわる評価項目において一定の格差がみられた。福岡以外の5地域間の序列については、異なる指標を採用することによって多少変動が生じると考えられる。しかし、福岡と5地域に生じたギャップについては、指標を入れ替えても埋めがたいものがある。採用した指標間には一定の相関性があると考えられるため、「都市の成長」において5地域と比較して福岡が劣位にあることは否めない。これらのギャップをポテンシャルとみなして、MICEとイノベーションを軸に、優位にある地域をベンチマークしながら持続的に向上させる戦略をとるべきであろう。

一方で、本稿で示した地域の評価方法の検証も行うべきであろう。本稿での評価の方法として、4つの異なるテーマに応じて31の評価項目を設定し、これらの評価項目を数値によって比較することが可能な指標をあてはめていった。各評価項目は、なるべく複数の指標にて構成することを目指したが、単数に終わったものもある。また、都市圏データが取得できない場合は、市や州、国などの単位でのデータを代用させた。本稿で単独の指標のみで構成した評価項目の指標の複数化と、データ取得の範囲をより都市圏と合致する範囲に絞ることができれば、結果はより緻密なものになることはまちがいないであろう。

さらに、データ取得においては、地域ごとに公表されているデータよりも、OECD等にて一括で公表されているデータの使用を重視した。これは、本稿のデータの透明性を高くすることによって、第三者による結果の検証を容易にするとともに、日本の他の地域においても本稿で提示した評価方法を応用しやすくするためである。また、Tripadvisorなど

のインターネットによるユーザーの評価にもとづく情報も多用した。これを情報の容易な取得方法と捉えることもできるが、マーケットからの定性的な評価情報として重宝するとも考えられる。都市あるいは地域の評価は、政策立案者ではなく、マーケットが決めるものである。それゆえ、都市政策には競争戦略という視点が重要であり、マーケットの声を掴むための指標は必須であると考ええる。

本稿の分析において、福岡を含む6つの地域にそれぞれの特性と課題を見出すことができた。これらをもとに、福岡の課題を国際的ベンチマーキングによって克服するための、競争戦略の方向性を示した。福岡は今後、これらのなかの一つの地域だけをベンチマークするのではなく、指標ごとにベンチマークとなる地域を定めながら、独自の競争戦略を描いていくべきである。

謝辞

本稿を構想するにあたり、ロンドン大学バートレット校教授のピーター・ホール卿から貴重なアドバイスをいただいた。2014年7月にご逝去された同氏に、感謝を記すとともに、ご冥福をお祈りする。また、本稿の基礎調査において、福岡アジア都市研究所の山田美里研究員に大変お世話になった。ここに記して感謝したい。

注釈

- 1) 企業の経営戦略において、競合他社の最良事例（ベストプラクティス）を分析し、取り入れる手法を、ここでは都市戦略に応用する。
- 2) IRBC2010 in Fukuoka H.P.「会議の説明と趣旨」を参照。 <http://asiabiz.city.fukuoka.lg.jp/IRBC2010/aboutirbc/index.html>
- 3) サスキア・サッセンは、著書『グローバル・シティ』において、フランクフルトをニューヨーク、ロンドン、東京とともに世界の金融システムをコントロールしうる「グローバル都市」に位置づけている。
- 4) 2014年4月9日福岡市に訪れた Bill Stafford 氏へのインタビューコメント。

- 5) 財団法人名古屋都市センター『米国各都市における国際交流都市づくりに関する調査』2005年、p.11を参照。
- 6) 指定都市市長会『諸外国の大都市制度に関する調査』2010年、p.22を参照。
- 7) City of Melbourne H.P. “Melbourne in numbers”を参照。 <http://www.melbourne.vic.gov.au/AboutMelbourne/Statistics/Pages/MelbourneSnapshot.aspx>
- 8) 財団法人滋賀県産業支援プラザ H.P. 「ドイツ・バイエルン経済情報提供サイト」を参照。 <http://www.shigaplaza.or.jp/windoe/bayern/gaiyou.html>
- 9) 指定都市市長会『諸外国の大都市制度に関する調査』2010年、p.8を参照。
- 10) RPV München Online を参照。 http://www.region-muenchen.com/themen/info_en/info_en.htm
- 11) 福川裕一ほか『持続可能な都市』岩波書店、2005年、p.121、岡部明子「都市再生「バルセロナ・モデル」の検証」を参照。
- 12) 国土交通省国土計画局『平成20年度 諸外国の首都問題等国土政策分析調査 スペインの国土政策事情』2009年、p.58を参照。
- 13) 福岡市『福岡市基本構想 第9次福岡基本計画』2012年、pp.52-107を参照。
- 14) 福岡については、「平成22年国勢調査」より取得した福岡市の2010年数値。シアトルは、United States Census Bureau (<http://www.census.gov>) より取得したシアトル都市圏の2008-2012年数値。バンクーバーは、Statistics Canada (www.statcan.gc.ca) より取得したバンクーバー都市圏の2011年数値。メルボルンは、Australian Bureau of Statistics (<http://www.abs.gov.au>) より取得したメルボルン都市圏の2011年数値。ミュンヘンは、Bayerische Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung (<https://www.statistik.bayern.de>) より取得したミュンヘン市の2012年数値。バルセロナは、Instituto Nacional de Estadística (<http://www.ine.es>) より取得したバルセロナ県の2013年数値。
- 15) OECD Stats Extracts (<http://stats.oecd.org/Index.aspx>) Data by Theme / Regions and Cities / Large Regions (TL2) / Demographic Statistics / Population by gender and broad age groupings / Population, Total, Old (65+), persons における各 Region の2013年数値から同 Demographic Statistics / Population by gender / Population, Total, all ages, persons における各 Region の2013年数値を除いた数値。
- 16) OECD Stats Extracts (<http://stats.oecd.org/Index.aspx>) Data by Theme / Regions and Cities / Metropolitan Areas / Total Population metro areas (persons) における各 Metropolitan Areas の2000年から2010年の各年の人口増加率の平均値(メルボルンを除く)。メルボルンについては、Australian Bureau of Statistics (<http://www.abs.gov.au>) Regional Population Growth, Australia, 2012-13 における GREATER MELBOURNE の2003年から2010年の各年の人口増加率の平均値。
- 17) World Bank Data (<http://data.worldbank.org>) Fertility rate, total (births per woman) における各国の2013年の数値。
- 18) OECD Stats Extracts (<http://stats.oecd.org/Index.aspx>) Data by Theme / Labour / Labour Force Statistics / Average annual hours actually worked per worker / Total employment における各国の2013年数値。
- 19) OECD Stats Extracts (<http://stats.oecd.org/Index.aspx>) Data by Theme / Regions and Cities / Large Regions (TL2) / Regional accounts / Regional household income / Disposable Household Income / Per capita, US\$ constant ppp, constant (real) prices (year 2005) における各 Region の2011年数値。
- 20) The Brookings Institution “Global Metro Monitor (2012)” (<http://www.brookings.edu/research/interactives/global-metro->

monitor-3) における各 Metropolitan Area の GDP per capita (2012) 数値。

- 21) NUMBEO (<http://www.numbeo.com/cost-of-living>) にて公開されている世界の Cost of Living 情報のなかで、Select City において各地域名を選択して取得した Rent Index、Groceries Index、および Restaurants Index の数値。各数値は New York を基準とした指数値であり、情報取得は 2014 年 7 月に行った。
- 22) 山田英二「諸外国における寄附の状況と税制の役割 平成 20 年 5 月 12 日」(http://www.tax.metro.tokyo.jp/report/tzc20_4/05.pdf) p.3 記載の Johns Hopkins Comparative Nonprofit Sector Project の調査結果および OECD データを用いた分析による各国の寄付金額の対 GDP 比の各国の数値。各数値は 1995 年から 2002 年間のデータであり、国別に異なる。スペインのみ宗教団体への寄付金額が総額に算入されていない。
- 23) 福岡については、福岡市「福岡市安全・安心ネットワーク」にて公開されている「福岡市における重要犯罪認知件数推移」(<http://www.city.fukuoka.lg.jp/seian/tokei/zyuyo.html>) における 2010 年および 2011 年の殺人件数の平均値を市域人口 100 万人あたりに換算した数値。シアトルについては、FBI にて公開されている“Crime in the United States 2012” (<http://www.fbi.gov/about-us/cjis/ucr/crime-in-the-u.s/2012>) における 2011 年および 2012 年の Murder 件数の平均値を市域人口 100 万人あたりに換算した数値。バンクーバーについては、Vancouver Police Department にて公開されている“Statistical Reports by Districts and Cities Total” (<http://vancouver.ca/police/organization/planning-research-audit/district-statistics.html>) における 2012 年および 2013 年の Culpable Homicide 件数の平均値を市域人口 100 万人あたりに換算した数値。メルボルンについては、Victoria Police にて公開されている“Crime Statistics” ([\[police.vic.gov.au/content.asp?Document_ID=782\]\(http://police.vic.gov.au/content.asp?Document_ID=782\)\) における 2011 年および 2012 年の人口 10 万人あたりの Homicide 件数の平均値を人口 100 万人あたりに換算した数値。ミュンヘンについては、ミュンヘン市にて公開されている“Security Archives” \(<http://www.muenchen.de/rathaus/Stadtfinfos/Statistik/Sipo/archiv.html>\) における 2011 年の Mord \(Murder\) 件数を人口 100 万人あたりに換算した数値。バルセロナについては、バルセロナ市にて公開されている“Statistical yearbooks of Barcelona city > Year 2011 > Safety and protection” \(<http://www.bcn.cat/estadistica/angles/dades/anuaris/anuari11/cap08/C0803030.htm>\) における 2009 年および 2010 年の del homicidio y sus formas \(the homicide and forms\) 件数の平均値を人口 100 万人あたりに換算した数値。](http://www.</div><div data-bbox=)

- 24) Center for International Earth Science Information Network (CIESIN), The Earth Institute at Columbia University によって公開されている World Data Center for Human Interactions in the Environment (<http://sedac.ciesin.columbia.edu/wdc/index.jsp>) における Global Earthquake Hazard Frequency and Distribution (1976-2002)、Global Flood Hazard Frequency and Distribution (1985-2003) および Global Cyclone Hazard Frequency and Distribution (1980-2000) の 3 つの災害発生頻度の 3 段階の世界分布図のなかで、各都市圏が位置する場所の危険度をもとに災害発生頻度 0 を 1 点、頻度 1-4 を 2 点、頻度 5-7 を 3 点、頻度 8-10 を 4 点として換算した数値。
- 25) OECD Stats Extracts (<http://stats.oecd.org/Index.aspx>) Data by Theme / Regions and Cities / Regional Well-Being (TL2) / Regional Well-Being / Number of physicians per 1000 population における各 Region の 2010 年数値。
- 26) OECD Stats Extracts ([28 国際的ベンチマーキングからみた福岡都市圏の特性と課題](http://stats.oecd.</div><div data-bbox=)

- org/Index.aspx) Data by Theme / Regions and Cities / Regional Well-Being (TL2) / Regional Well-Being / Life expectancy at birth (years) における各 Region の 2013 年数値。
- 27) World Weather Information Service (<http://www.worldweather.org/index.htm>) にて提供されている各地域の過去 30 年間の月別最高・最低平均気温の記録をもとに算出した数値。福岡、シアトル、メルボルンは、1981 年～2010 年の記録、バンクーバー、ミュンヘン、バルセロナは、1971 年～2000 年の記録である。
 - 28) 上記にて同様に提供されている過去 30 年間の月別平均雨天日数を地域別に集計した数値。
 - 29) ESRI 提供の Topographic Map を使用し、各地域の中心市の市庁舎を中心に半径 10 km の円を描き、この範囲内に占める大規模な連続する緑地および水面の範囲の合計の割合を示す数値。
 - 30) 各地域によって規定されている都市圏の人口密度を採用した。これらの圏域の広さは異なるが、人口は比較的近い数値であるため、人口密度が高い地域ほど多くの人が集まって活動していると想定した。
 - 31) 各地域の中心市域における鉄道駅の数由市域人口 10 万人当りに換算した数値（メルボルンを除く）。メルボルンについては市域がきわめて狭いため、都市圏中心部に位置するメルボルン市を含む 20 の市（人口約 215 万）にて算定を行った。
 - 32) OECD Stats Extracts (<http://stats.oecd.org/Index.aspx>) Data by Theme / Regions and Cities / Metropolitan Areas / Environment / CO2 emissions per capita (tonnes per inhabitant) における各 Metropolitan Areas の 2008 年数値（メルボルンを除く）。メルボルンについては、同 Regions and Cities / Social indicators TL2 / Environmental indicators / CO2 emissions per capita (tonnes per inhabitant) におけるビクトリア州の数値。
 - 33) OECD Stats Extracts (<http://stats.oecd.org/Index.aspx>) Data by Theme / Regions and Cities / Metropolitan Areas / Environment / population exposure to air pollution PM2.5 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$, annual average) における各 Metropolitan Areas の 2005 年数値（メルボルンを除く）。メルボルンについては、同 Regions and Cities / Small Regions (TL3) / Environment / population exposure to air pollution PM2.5 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$, annual average) におけるビクトリア州の数値。
 - 34) UNESCO World Heritage のリスト (<http://whc.unesco.org/en/list/>) にもとづく各地域の中心市から概ね 100km 以内に位置する世界遺産の数。
 - 35) Tripadvisor (<http://www.tripadvisor.com>) にて公開されている各地域の中心市および周辺の観光情報において Attractions に属する Cultural、Landmarks、および Outdoors の各件数。情報取得は 2014 年 9 月に行った。
 - 36) Hotels.com および Expedia.com にて各地域の中心市において 2014 年 10 月 29 日チェックイン 30 日チェックアウトを条件に検索した結果をもとに、予約可能件数の多いほうの予約サイトの数値。
 - 37) Tripadvisor (<http://www.tripadvisor.com>) にて公開されている各地域の中心市および周辺の観光情報において Attractions に属する Museums および Performances の各件数。情報取得は 2014 年 9 月に行った。
 - 38) Tripadvisor (<http://www.tripadvisor.com>) にて公開されている各地域の中心市および周辺の観光情報における Restaurants の各件数。情報取得は 2014 年 9 月に行った。
 - 39) World Stadiums (<http://www.worldstadiums.com>) に掲載されている国別のスタジアムリストにおいて、各地域に該当する City 別に得た情報のなかで、Seats が all-seater でありかつ Capacity が 10,000 以上のスタジアムの数。
 - 40) Olympic.org の All games since 1896 に記載のある 2014 年までの夏季および冬季の大会開催件

数。

- 41) Google.com (米国)、Google.ca (カナダ)、Google.au (オーストラリア)、Google.de (ドイツ)、Google.es (スペイン)、Google.co.jp (日本)にて各地域名を各検索サイトの言語による呼称にて入力・検索し、ヒットした検索数の合計値。
- 42) OECD Stats Extracts (<http://stats.oecd.org/Index.aspx>) Data by Theme / Regions and Cities / Metropolitan Areas / Labour market / Annual average labour force growth (period 2000-10) における各 Metropolitan Areas の数値 (メルボルンを除く)。メルボルンについては、同 Regions and Cities / Small Regions (TL3) / Regional Labour Market TL3 / Labour Force におけるメルボルン都市圏の2000年から2010年の平均増加率を算定した数値。
- 43) OECD Stats Extracts (<http://stats.oecd.org/Index.aspx>) Data by Theme / Regions and Cities / Metropolitan Areas / Labour market / Labour force における各 Metropolitan Areas の2010年数値が各都市圏人口に占める割合 (メルボルンを除く)。メルボルンについては、同 Regions and Cities / Small Regions (TL3) / Regional Labour Market TL3 / Labour Force におけるメルボルン都市圏の2010年数値が都市圏人口に占める割合。
- 44) OECD Stats Extracts (<http://stats.oecd.org/Index.aspx>) Data by Theme / Regions and Cities / Regional Well-Being (TL2) / Regional Well-Being / Share of labour force with at least secondary education における各 Region の2013年数値。
- 45) The Brookings Institution “Global Metro Monitor (2012)” (<http://www.brookings.edu/research/interactives/global-metro-monitor-3>) における各 Metropolitan Area の GDP (2012) を Employment で除した数値。
- 46) OECD Stats Extracts (<http://stats.oecd.org/Index.aspx>) Data by Theme / Regions and Cities / Metropolitan Areas / Labour market / GDP annual average growth rate (period 2000-10) における各 Metropolitan Areas の数値 (メルボルンを除く)。メルボルンについては、同 Regions and Cities / Small Regions (TL3) / Regional accounts TL3 / Regional GDP / Per capita, US\$ constant ppp, constant (real) prices (year 2005) におけるビクトリア州の2000年から2010年の平均増加率を算定した数値。
- 47) Fortune Global 500 (<http://fortune.com/global500>) の2014年版売上ランキングに掲載されている企業本社の各都市圏に立地する件数。
- 48) 上記のランキングにおける各地域内で最上位の企業の売上金額。同ランキングに該当する企業がない福岡は、株式会社九電工、バンクーバーについては、Telus Corporation の売上金額をそれぞれ2013年12月末の為替レートにてUS\$に換算した数値。
- 49) OECD Stats Extracts (<http://stats.oecd.org/Index.aspx>) Data by Theme / Regions and Cities / Metropolitan Areas / Patent activity / PCT patents applications per 1,000,000 inhabitants における各 Metropolitan Areas の2008年数値 (メルボルンを除く)。メルボルンについては、同 Regions and Cities / Small Regions (TL3) / Innovation Indicators TL3 / PCT patents applications per 1,000,000 inhabitants におけるビクトリア州の数値。
- 50) 厚生労働省『平成25年版 労働経済の分析』p.101「開業率の国際比較」グラフに記載された各国の2007年の数値。
- 51) KPMG “Tax rates online” (<https://www.kpmg.com/global/en/services/tax/tax-tools-and-resources/pages/tax-rates-online.aspx>) における各国の Corporate tax rate の数値。
- 52) QS World Universities (<http://www.topuniversities.com/qs-world-university-rankings>) の2014年ランキングにおいて701+

以内にランクインしている大学の各都市圏に立地する件数。

- 53) 上記のランキングに記載された各地域での最上位校の順位。
- 54) 福岡については、「平成 25 年在留外国人統計」より取得した福岡市の 2013 年数値。シアトルについては、United States Census Bureau (<http://www.census.gov>) より取得したシアトル都市圏の 2008-2012 年数値。バンクーバーについては、Statistics Canada (www.statcan.gc.ca) より取得したバンクーバー都市圏の 2011 年数値。メルボルンは、Australian Bureau of Statistics (<http://www.abs.gov.au>) より取得したメルボルン都市圏の 2011 年数値。ミュンヘンは、Bayerische Landesamt für Statistik und Datenverarbeitung (<https://www.statistik.bayern.de>) より取得したミュンヘン市の 2012 年数値。バルセロナは、Instituto Nacional de Estadística (<http://www.ine.es>) より取得したバルセロナ県の 2013 年数値。
- 55) 各大学のホームページ掲載情報にもとづく各大学の 2012 年または 2013 年数値。
- 56) ICCA (International Congress and Convention Association) Statistics Report 2012 (<http://www.iccaworld.com/cdps/cditem.cfm?nid=4036>) における各 City での国際会議開催件数。
- 57) 福岡については、福岡市観光戦略課「平成 24 年福岡市観光統計」(<http://www.city.fukuoka.lg.jp/keizai/kankou-s/shisei/hesei24nennhukuokasikankoutoukei.html>) における 2012 年宿泊客数および外国人延宿泊数より算出した数値。シアトルについては、Visit Seattle (<http://www.visitseattle.org/Home.aspx>) における 2008 年観光客数および US Department of Commerce, ITA, Office of Travel and Tourism Industries (<http://travel.trade.gov/>) “2013 US Travel and Tourism Statistics (Inbound) : Top States, Cities, and Regions Visited” における Overseas

Visitors2013 年数値より算出した数値。バンクーバーについては、Tourism Victoria "Domestic / International Visitor Estimates to Victoria Year ending March 2000-2014" (<http://www.tourismvancouver.com>) における Total Canada および Total Visitors2013 年数値より算出した数値。メルボルンについては、Tourism Victoria "Domestic / International Visitor Estimates to Victoria Year ending March 2000-2014" (<http://www.tourism.vic.gov.au/>) における Domestic Overnight Visitors Estimates および International Overnight Visitors Estimates2014 年数値より算出した数値。ミュンヘンについては、City of Munich "Facts about the tourism destination Munich 2013" (http://www.muenchen.de/rathaus/home_en/Tourist-Office) における Total International Arrivals および Total Arrivals2013 年数値より算出した数値。バルセロナについては、Instituto Nacional de Estadística "Hotel Occupancy Survey: Annual results 2013" (http://www.ine.es/en/welcome_en.htm) における Barcelona の Guests, overnight stays and average stay, Total Number of guests および Residents abroad2013 年数値より算出した数値。

- 58) 福岡については、福岡空港の旅客数を国土交通省「平成 24 年空港管理状況調書」より取得した国内線旅客数の 2012 年数値。シアトルについては、Seattle-Tacoma International Airport の旅客数を Port of Seattle (<http://www.portseattle.org/Sea-Tac/Pages/default.aspx>) “Airport Statistics, 2013 Activity Report” より取得した 2012 年数値。バンクーバーについては、Vancouver International Airport、メルボルンについては、Melbourne Airport、ミュンヘンについては、Munich Airport、バルセロナについては、Barcelona-El Prat Airport の旅客数を一般財団法人日本航空協会『航空統計要覧 (2013 年版)』より取得した 2012 年数値。

- 59) 上記の方法で取得した情報にもとづいた各空港の国際線旅客数の2012年数値。
- 60) OAG フライトスケジュール検索 (<http://www.oag.com/Travel-Tools/Where-Can-Fly-Direct>) による2014年9月15～21日の各地域を出発地とした国内線の直行便の就航都市数。地域内の主要空港以外の空港の出発地名がその地域名であるフライトも含まれる。
- 61) 上記の方法で取得した情報にもとづき、国際線就航都市を各地域が立地する大陸の内外の都市に分類し、集計を行った数値。大陸の定義は、北アメリカ大陸、南アメリカ大陸、アフリカ大陸、ヨーロッパ大陸、アジア大陸、オーストラリア大陸、南極大陸の7つの大陸の分類方法に従った。
- 62) 同上。
- 63) 各地域の主要空港の滑走路本数を各空港公開情報より取得した数値。
- 64) 福岡は、福岡市営地下鉄空港線、シアトルは、LINK、バンクーバーは、SKY TRAIN、ミュンヘンは、S Bahn 8号線、バルセロナは、RENFE を利用した場合の最短所要時間。メルボルンのみ主要空港への鉄道によるアクセス手段がないため、Southern Cross Station から発着している空港バスを利用した場合の所要時間とした。
- 65) 佐貫利雄『成長する都市 衰退する都市』時事通信社、1983年、pp.389-454を参照。
- 66) 北九州都市協会(編)『住みよい都市』共同通信社、2004年、pp.8-16を参照。
- 67) 山崎朗(編)『クラスター戦略』有斐閣、2002年、p.13を参照。
- 68) 定期的、且つ少なくとも3ヶ国以上のローテーションで開催され、一回あたりの参加者が50人以上の会議。
- 69) エドワード・グレイザー『都市は人類最高の発明である』エヌティティ出版、2012年 pp.37-44「シリコンバレーの台頭」を参照。
- 70) 福岡市「国家戦略特別区計画(素案)」2014年を参照。

参考文献

- (1) 金本良嗣・徳岡一幸:日本の都市圏設定基準, 応用地域学研究, No.7, 2002.
- (2) 久保隆行:福岡の国際競争力, 都市政策研究(福岡アジア都市研究所), 第15号, 2013.
- (3) 久保隆行:世界のゲートウェイ都市と福岡, 九州経済調査月報(九州経済調査協会), No.819, 2014.
- (4) 久保隆行・山崎朗:地方都市のグローバリゼーション, 日本都市学会年報. Vol.47, 2014.
- (5) 福岡アジア都市研究所: Fukuoka Growth 2013-2014, 2014.
- (6) 森記念財団都市戦略研究所:世界の都心総合力インデックス 2010, 2011.
- (7) 森記念財団都市戦略研究所:世界の都市総合力ランキング 2013YEARBOOK, 2014.
- (8) S・ハイマー著・宮崎義一 編訳:多国籍企業論, 岩波書店, pp.364-374, 1979.
- (9) A T Kearney: 2014 Global Cities Index and Emerging Cities Outlook, 2014.
- (10) Economist Intelligence Unit: Hot Spots: Benchmarking global city competitiveness, 2012.
- (11) Friendmann, J.: The World City Hypothesis, *Development and change*, Vol.17, pp.69-83, 1986.
- (12) Knight Frank Research: *The Wealth Report 2013*, 2013.
- (13) Parkinson, M. et al.: *Second Tier Cities in Territorial Development in Europe: Performance, Policies and Prospects*, ESPON & European Institute of Urban Affairs, Liverpool John Moores University, 2013.
- (14) Parkinson, M. et al.: *UK city-regions in growth and recession: How are they performing at home and abroad?*, Liverpool John Moores University, 2014.
- (15) Taylor, P: The Remarkable Legacy of Peter Hall's (1966) *The World Cities*, GaWC Research Bulletin 423, 2013.